

尙法制問題ヲ審議スル小分科會ハ第六回會議（六月四日）ニ依リ設置セラレタルモ〔瑞（議長）波（報告者）羅、伊、葡〕前日約定案第十六條再起草ヲ審議シタル外會合セス

第六、精神的軍縮分科會報告書提出

分科會第十四回會合（七月十九日）ニ於テ日本委員ハ軍縮會議第一期ノ結果ヲ取纏メタル所謂「ベネシユ」決議案ハ精神的軍縮ニ言及シ居ラサルヲ指摘シ委員會ニ於テ右挿入ヲ必要ト認ムルニ於テハ議長ニ於テ本分科會ノ事務ノ報告ヲ作成シ「ベネシユ」氏ニ對シ決議案ニ包含方交渉セシメントラ提議セル處多數ノ同意アリタルカ本件ニ關シ軍縮部長「アグニデス」氏ノ意見ヲ求メタル處同部長ハ「ベネシユ」案ハ元來軍縮會議ノ事業ヲ促進スル目的ヲ以テ私的會談ヲ行ヒ各代表部ノ同意スル點ヲ明ニセント努メタル結果ヲ纏メタルモノニシテ會議ノ事業報告ノ性質ヲ有セサルヲ以テ本分科會成績ノ報告ヲ之ニ加ヘサルコトノ妥當ナリト述ヘタリ

依テ分科會議長ニ於テ報告書ヲ作成シ之ヲ政治委員會議長ニ提出スベシト述ブ蘇國委員ハ蘇國力第一讀會ヲ了シタル約定案ニ對シ根本ノ主義ヲ全ク異ニセルコト聯盟ノ事業、主義等ノ宣傳及國際學藝協力委員會トノ連絡ニ付キ約束ヲ爲シ得サルコトヲ繰返シ只々國民ノ接近ヲ促進スヘキ各方面ノ實際的措置ニ協力スルニ各ナラサル趣旨ノ宣言ヲ讀ミ上ケ之ヲ報告書ニ添付センコトヲ求メタルモ結局議事録中ニ其ノ全文ヲ掲載スルコトニ同意セリ

本分科會報告書ハ七月二十五日「ヘンダーソン」議長ニ提出セラレタリ (Conf. D/138)

第二編 各 論

第二章 陸軍問題

目次

第二章 陸軍問題	一七七
第一節 總說	一七七
一、陸軍委員會ノ構成	一七七
二、委員會ノ事業概觀	一七七
(甲) 人員問題	一七七
(乙) 質的軍縮問題	一七八
第二節 質的軍縮問題	一七八
第一項 質的軍縮問題審議方法ニ關スル一般討議	一七八
第二項 重砲問題	一八〇
一、專門分科會諮問事項	一八〇
二、專門分科會經過	一八〇
三、陸軍委員會ニ於ケル一般討議	一八三
四、一般委員會ニ對スル報告案作成	一八五
第三項 戰車裝甲車問題	一九一
一、專門分科會諮問事項	一九一
二、專門分科會經過	一九二

三、陸軍委員會ニ於ケル一般討議及報告案作成……………	一九八
第四項 要塞問題……………	二〇〇
第五項 一般委員會ニ對スル報告提出……………	二〇一

第二章 陸軍問題

第一節 總 說

一、陸軍委員會ノ構成

陸軍委員會ハ二月二十五日一般委員會ノ決定ニ基キ設立セラレタル全員委員會ニシテ其權限トスル處ハ一般委員會揭示ノ下ニ原則問題以外ノ陸軍關係事項ノ審議ヲ行ヒ且一般委員會ニ對シ之カ報告ヲ爲スニアリ
幹部構成者左ノ如シ

議 長	「ブ エ ロ」(「ウルグアイ」)
副 議 長	「レイドナー」(「エストニア」)
同	「ヴァンランショット」(「和蘭」)
報 告 者	「ブールキャン」(「白國」)

二、委員會ノ事業概觀

委員會ハ二月二十七日第一回會議開催ヨリ六月六日休會ニ至ル迄同ヲ重ネルコト十八回第一回ハ議長選舉第二回ハ人員問題ノ審議ニ從事シタルモ第三回以後第十八回迄ノ全部ハ之ヲ質的軍縮問題ノ審議ニ充當セリ右ノ外委員會ハ二回ニ互リ專門分科會ヲ設立シ第一專門分科會(三月十日乃至同十六日)(六回開催)ヲシテ人員問題ヲ第二專門分科會(四月二十九日乃至五月三十日十三回開催)ヲシテ質的軍縮問題ヲ夫々研究セシムル所アリタリ

(甲) 人 員 問 題

委員會ハ其事業ノ第一着手トシテ人員問題ノ審議ニ從事セルモ其ノ後專ラ人員問題ヲ取扱フ爲ノ特別分科會設立セラレタル結果委員會ノ着手セル事業ハ自然同分科會ニ繼承セラルルコトナレリ本問題ニ關スル專門分科會ノ業績ニ關シテハ第

六章人員問題第一節ニ後述ス

(乙) 質的軍縮問題

質的軍縮問題ハ四月二十二日一般委員會ノ決議ニ基キ陸軍委員會ノ議題トナリタルモノニシテ委員會ハ右決議中ニ示サレタル特性即チ尤モ攻撃的ナル又一般ニ民衆ニ對シ尤モ脅威的ナル且國防ニ對シ尤モ有效ナル特性ヲ有ス陸軍兵器ヲ選定スル爲(イ)重砲(ロ)戰車、裝甲自動車、移動砲塔及裝甲列車(ハ)要塞及(ニ)化學戰瓦斯ノ四問題ヲ審議スルコトトナリタルモノ右ノ中(ニ)ニ關シテハ五月十日ノ一般委員會決議ニ基キ特別分科會設立セラレタル爲委員會トシテハ(イ)(ロ)(ハ)ノ三ニ付テノミ報告書ヲ作成シ六月七日之ヲ一般委員會ニ提出セリ、然レトモ一般委員會ニ於テハ其ノ後本報告ヲ基礎トスル討議ヲ開始セス本問題ノ處理ハ主要國間ノ私的會談ニ委セラレルコトナレリ(私的會談經過及七月二十三日一般委員會決議中陸軍問題ニ關スル事項ニ付テハ第一編第二章第八節參照)

第二節 質的軍縮問題

第一項 質的軍縮問題審議方法ニ關スル一般討議

質的軍縮問題ハ四月二十六日第三回陸軍委員會ニ初メテ上議セラレタルカ先ツ問題トナリタルハ本問題ノ取扱方ヲ如何ニスヘキヤノ點ニシテ此ノ點ニ關シ議長ハ本委員會ノ任務ハ四月二十二日ノ一般委員會ノ決議ノ明示スル所即チ最モ特ニ攻撃的ナル又ハ國防ニ對シ最モ有效ナル又ハ一般民衆ニ對シ最モ脅威的ナル特性ヲ有スル陸軍兵器ノ選定ヲナスニアリト前置キ審議方法ニ關シテハ(イ)右決議ノ適用セラルヘキ兵器ニ關シ今日迄會議ニ提出セラレ各種ノ提案ヲ審查スルコト(ロ)各兵器毎ニ審查スルコト及(ハ)右決議ニ示サル特性ノ定義ヲ決定シ如何ナル兵器カ前記ノ如キ特性ヲ有スルヤヲ決定スルコトノ三方法アリト述ヘ其ノ何レノ方法ニ依ルヘキヤヲ委員會ノ決定ニ委シタリ右ニ對シ伊、英、獨及佛ノ委員ハ(イ)ノ方法ヲ可ナリトセルヲ以テ委員會ハ之レニ依ルコトナリ差當リ(一)重砲(二)戰車(三)裝甲自動車(四)要塞ニ關スル各國提案ノ審查ニ着手スルコトナレリ、右審議方法決定ニ際シ我方委員ハ議長提議(イ)ニ異議ヲ挿ムモ

ノニ非ルモ若シ各兵器ニ付一般委員會決議指定ノ三特性ノ各個ヲ審查シ便宜上之ヲ數學的「コエフィシエント」ニ依リ表示スルコトトセハ(例ヘハ之ヲ戰車ニ付テ云ヘハ(イ)攻撃性三(ロ)國防ニ對スル有效性零(ハ)市民脅威性零總計三トスルカ如シ)委員會事業ノ進捗ヲ助長スルコトナルヘシト述ヘタルモ贊意ヲ表スルモノナカリシヲ以テ我方モ元來會議事業進捗ヲ念トシテ提案セルモノナルニ鑑ミ強テ自說ヲ固執セシ議長提案(イ)ヲ受諾セリ次テ如何ナル順序ニ依リ右ノ審查ヲ開始スヘキヤニ關シ討議ノ末各國ノ提案區々ナルヲ以テ委員會幹部會ヲシテ之ヲ整理セシムル爲各提案國ヨリ同幹部會ニ對シ説明ヲナサシムルコトニ決定セントスルニ付我方委員會ハ提案國ニ限ラス非提案國ヲモ含ム各國全部ニ右説明ノ機會ヲ與ヘテハ如何ト提議シ議長又我主張ヲ容レ右ニ決定セリ

尙前記四種ノ兵器ノ外米國委員ノ注意ニ基キ化學戰瓦斯ニ關スル提案ヲモ審查スルコトニ決定セリ

以上ノ如クニシテ幹部會ハ各國側提案理由ノ説明ヲ聽取シタル後之ヲ整理ノ上報告(D/C/H)ヲ提出シタル處議長ハ若干代表部ハ移動式重砲ト固定重砲トニ付制限ニ差異ヲ設クルコトヲ要求シ居ルニ付專門分科會ヲ設立シ移動式ト固定式トニ付重砲ノ定義ヲ決定セシムルコトトシテハ如何ト提議シ報告者モ亦此點ニ關聯シ專門分科會ニ於テ右ノ如キ定義決定迄ハ委員會ハ差當リ固定式重砲ノ問題ニハ觸レス移動式重砲ノ研究ニ從事シテハ如何ト述ヘ委員會ハ其ノ儘重砲ノ口徑問題ノ審議ニ入ラントセルヲ以テ我方委員ハ若シ右ノ如ク陸軍委員會自身カ砲ノ口徑重量及射程ノ研究ニ從事スルコトナラハ多大ノ困難ニ遭逢スル虞アリ右兵器ノ特性研究ノ爲ニハ須ラク專門分科會ヲ設立スヘシ即チ委員會ハ重砲カ一般委員會指定ノ特性ヲ有スルヤ否ヤヲ決定スルニ當リ口徑、重量又ハ射程ヲ標準トスルコトヲ得ルヤ重砲ヲ全體トシテ取扱フヘキヤ又ハ大砲、榴彈砲及塹壕臼砲ノ三ニ區分シテ取扱フヘキヤノ問題ヲ先ツ決定セサルヘカラサル處此等ノ點ニ關シテハ專門分科會ヲ設置スル以外ニ良法ナシト提議セル處英米希ノ委員之ヲ支持シ又佛國委員ハ右專門分科會ニ考究ヲ委嘱スヘキ諸點ヲ列舉セル諮問事項案(D/C/H/6)ヲ提出セリ仍テ議長ハ右佛國案ヲ基礎トシ專門分科會ノ考究題目選定ノ爲起草委員會ヲ設定スルコトトシ度シト諮リ幹部會及日、英、米、佛、伊、白、獨、蘇、和、西、伯、塞、瑞西、瑞典ノ十四國委

員ヨリ成ル起草委員會ヲ指名セリ

第二項 重砲問題

一、専門分科會諮問事項

上述ノ如クニシテ佛國案ヲ基礎トシ起草委員會ニ於テ採擇セル諮問事項 (D/C.T./7) 左ノ如シ

第一

(一) 固定砲及移動砲ノ定義如何

(二) 固定砲ヲ移動砲ニ及移動砲ヲ固定砲ニ改造スルコトノ現存可能性如何

第二

(一) 永久要塞ノ主要施設ニ對シテハ射撃スルニ必要ナル火砲ノ特性如何

(イ) 彈丸重量

(ロ) 炸藥量

(ハ) 口徑等

(二) 野戰ニ於ケル陣地、諸組織及其他ノ目標ニ對シ有效ニ射撃スルニ必要ナル火砲ノ特性如何

第三

(一) 現代戰ニ於テ軍隊及戰鬥手段カ配置セラルル戰場ノ深サ如何

(二) 上記ノ深サヲ超エテ射撃シ得ル火砲ノ技術的性能如何

二、専門分科會議事經過

専門分科會ハ四月二十九日乃至五月九日迄九回ノ會議ヲ開催セリ經過及決定事項左ノ通り

(イ) 問題第一ノ(一)

本問題ニ關シテハ英米伊等ノ各委員ヨリ夫々定義案 (D/C.T./C.E./1) ノ提出アリ討議ノ結果右各國案ヲ調整セル左ノ如キ報告案 (D/C.T./C.E./2) ヲ採擇セリ

「固定砲トハ其特殊ノ技術の構造上特別ノ裝置及材料ヲ使用セサル限リ其ノ固有ノ位置タル要塞地帯又ハ海岸地帯外ニ於テハ之ヲ使用スルコト能ハサル一切ノ火砲ヲ含ム移動砲トハ上記火砲ヲ除ク一切ノ火砲ヲ含ム」

(ロ) 問題第一ノ(二)

本問題ニ關シテハ英米佛伊ノ各委員ヨリ夫々回答案 (D/C.T./C.E./3, 4, 5, 6, 7, 8) ノ提出アリタルモ討議ノ結果大體米國案ヲ其ノ儘採擇スルコトトシ之ニ些少ノ修正ヲナシタル左ノ如キ報告案ヲ決定セリ

「概言セハ固定砲ト移動砲トハ相互ニ轉用可能ナリ固定砲ヲ移動砲トナス改造性ハ主トシテ砲架ノ如何ニ存ス改造所要時間ハ準備ノ種類及量、砲ノ大キサ砲架ノ貯藏分布及材料使用方法ノ便否ニ係ル若シ砲架ノ準備アル場合ハ右所要時間ハ數時間ニテ足ルヘク然ラサル場合ハ(金屬工業ノ充分ニ發適セル國ニ於テモ) 二三ヶ月ヲ要スヘシ右ノ如キ工業存セサル國ニ於テハ必要ナル材料ヲ前以テ貯藏シ置カサル限リ急速改造ハ不可能ナルヘシ」

(ハ) 問題第二ノ(一)

本問題ニ關シテハ英國ハ(イ) 一〇〇「キログラム」(ロ) 一五「キログラム」(ハ) 二〇〇「ミリメートル」ヲ佛國ハ(イ) 二〇〇「キログラム」(ロ) 三三「キログラム」(ハ) 二五〇「ミリメートル」ヲ獨逸ハ(イ) 六「キログラム」(ロ) 一「キログラム」(ハ) 七七「ミリメートル」ヲ伊國ハ(イ) 一六一「キログラム」(ロ) 三「キログラム」(ハ) 一〇五「ミリメートル」ヲ又瑞典ハ(イ) 二〇〇「キログラム」(ハ) 二八〇「ミリメートル」ヲ主張シ大體ニ於テ口徑ニ關シテハ二一〇「ミリメートル」以下ヲ主張スルモノ多カリシカ我方ハ現代ノ堅固ナル要塞ニ對シテハ(イ) 一噸(ハ) 四〇〇「ミリメートル」ノ砲ヲ要スヘク之カ最下限ハ二八〇「ミリメートル」ナリ又薄弱ナル要塞ニ對シテモ二一〇「ミリメートル」ニテハ不充分ナリト主張シ各國ノ意見區々ナリシヲ以テ小分科會ヲ設ケ之カ

統一ヲ計ラシムルコトナリタリ小分科會ニ於テハ佛國ノ主張ニ基キ永久要塞ヲ其ノ強度ニ依リ三種ニ區分シ

(イ) 大ナル強度ヲ有スルモノ(「ベトン」ノ厚サ二「メートル」以上)ニ對シテハ彈丸ノ重量五〇〇「キログラム」以上口徑三二〇「ミリメートル」以上

(ロ) 中等ノモノニ對シテハ彈丸重量約二〇〇「キログラム」炸藥量三五「キログラム」口徑二五〇「ミリメートル」以上

(ハ) 最薄弱ナルモノ(「ベトン」ノ厚サ一「メートル」以下)ニ對シテハ一〇五乃至二二〇「ミリメートル」

トナスノ報告案結セラレタルニ付我方ハ右(イ)(ロ)ヲ其ノ儘同意シタルモ(ハ)ハ一〇五乃至二五〇「ミリメートル」ノ意味ニ修正スヘシト主張シ結局我方主張通り決定セリ

(ニ) 問題第二ノ(一)

本問題ニ關シテハ我方ハ陣地戰ノ爲ニハ口徑二四〇「ミリメートル」時トシテハ其レ以上ヲ要スト主張セシモ他ノ諸國ハ二二〇「ミリメートル」以上ヲ主張セルモノナク小分科會ヲシテ研究セシメタル結果左記趣旨ノ報告案ヲ採擇セリ

「野戰ニ於テ掩護薄弱ナル人馬ニ對シテハ約一〇〇「ミリメートル」以下ノ火砲、比較的局限セラレタル人員及材料ヲ以テ設備セラレタル陣地ニ對シテハ一五〇乃至二二〇「ミリメートル」ノ火砲ヲ以テ有效ニ射撃シ得ヘク陣地ノ強度カ前記(ハ)級ノ永久要塞ニ匹敵スル場合ニ於テハ二五〇「ミリメートル」ヲ必要トスヘシ」

(ホ) 問題第三ノ(一)

本問題ニ關シテハ各國主張多岐ニ分レ小分科會ニ於テモ之カ統一ヲナスコト不可能トナリタルニ付己ムナク左記ノ如キ多數意見ト少數意見トヲ併記セル報告案ヲ採擇セリ

○多數意見 (日、英、米、佛、伯、丁、西、芬、印、諾、和、波、葡、羅、智、塞、瑞典及「エストニア」)

「交戰中ノ軍隊ノ配置セラルヘキ戰場ノ深サハ約二十「キロメートル」トス右深サヲ超ヘ且第一線ヨリ約五十「キロメートル」迄ノ地帯内ニハ作戰上重要ナル目標(例ヘハ自動車等ニ依リ五六時間内ニ戰鬪ニ加入シ得ヘキ戰術的豫備隊等)存在シ得ヘク彈藥其ノ他ノ集積所モ通常此ノ地帯ニ配置セラル」

○少數意見 (獨、奧、勃、洪、伊及蘇)

「交戰中ノ軍隊ノ配置セラルヘキ戰場ノ深サハ一五乃至二〇「キロメートル」トス右深サヲ超ヘ作戰上重要ナル目標ノ配置セラルヘキ深サハ之ヲ限定シ得ス」

(ヘ) 問題第三ノ(二)

本問題ニ關シテモ各國ノ意見區々ナルモノアリタルヲ以テ小分科會ニテ妥結ヲ計リタル上左記要旨ノ報告案ヲ採擇セリ

「前記(一)ノ深サヲ超エテ射撃スル爲メニハ右ノ深サニ砲列ヨリ敵ノ第一線ニ至ル距離ヲ加ヘタル丈ノ射程ヲ必要トス右距離ハ最小限射程ノ一割ナリ從テ(イ)第一線ノ前方一五「キロメートル」ノ射程ヲ有スル爲ニハ口徑一〇五「ミリメートル」ヲ要シ(ロ)第一線前方二〇「キロメートル」ノ射程ヲ有スル爲ニハ口徑一五五「ミリメートル」ヲ要シ(ハ)第一線前方二五「キロメートル」ノ射程ヲ有スル爲ニハ口徑二百「ミリメートル」ヲ要スヘシ第一線前方五〇「キロメートル」ノ射程ヲ有スル砲ノ設計ニ關シハテ技術上困難ナシ但シ右ノ如キ特殊ノ砲ノ性能ヲ確定シ且特ニ大ナル射程ヲ有スル砲ヲ禁止スル爲課スヘキ條件ヲ求ムル爲ニハ砲設計ノ專門家ニ諮問スルコト必要ナリ」

三、陸軍委員會ニ於ケル一般討議

陸軍委員會ハ前記専門分科會ノ報告(D/C.T/8. 8(a) 8(b) 8(c))ヲ受領シ右ヲ基礎トシテ一般委員會ニ對スル報告ノ作成ヲナス爲之ヲ五月十日第九回會議ニ上程セリ先ツ議長ハ固定砲及移動砲ノ問題ニ付委員會ハ如何ナル結論ヲナサントスヤト

諮リタル處西國委員ハ右專門家報告ハ長時間ノ論議ヲ盡シタル末漸ク到達シタルモノナルニ付右ニ對シテハ最早ヤ論議ノ要ナシ西國ハ右報告ヲ基礎トシ一般委員會ニ對スル回答私案(D/C.T./10)ヲ作成セリトテ之ヲ披露セリ報告者ハ若シ專門家報告ニ付討議ヲ開始スルニ於テハ徒ラニ時間ヲ空費シ無用ノ論議ヲ反覆スルニ過ギザルヘシト注意シ委員會ノ爲スヘキ事業ハ右報告ヲ單ニ諒承シ之ヲ材料トシテ如何ナル武器カ最モ特ニ攻撃的ナリヤ國防ニ對シ最モ有效ナリヤ又一般民衆ニ對シ脅威性ヲ決定スルヤニアリト述ヘ議長亦之ニ贊シ委員會ハ專門家ノ報告ニハ觸レス委員會自身ノ回答案作成ニ付考慮スルコトニ決定セリ

右決定後各國委員ヨリ一般委員會ニ對スル回答案ニ關シ提案及意見ノ開陳アリ主要ナルモノ左ノ如シ

和蘭委員ハ移動砲ニ於テハ口徑一五五「ミリメートル」彈丸重量五〇「キログラム」ノ砲ハ一般委員會指定ノ三特性ヲ具備スルモ固定砲ニ付テハ特別ノ制限ヲ考慮セサルヘカラストノ提案(D/C.T./19)ヲナシ洪委員ハ口徑一〇〇「ミリメートル」ヲ超ユル砲ハ一般委員會指定ノ三特性ヲ具有ストノ提案(D/C.T./12)ヲナシ伊、土、埃、蘇、丁等委員之ヲ支持ス加奈陀委員ハ口徑一五〇「ミリメートル」ヲ超ヘ二十「キロメートル」以上ノ射程ヲ有スルモノ支那委員ハ口徑八〇「ミリメートル」ヲ超ユルモノ又獨逸委員ハ「ヴェルサイユ」條約規定ノ七七「ミリメートル」ヲ超ユルモノハ夫々前記三特性ヲ有スト主張シ白國委員ハ榴彈砲及臼砲ニ付テハ口徑二二〇「ミリメートル」其他ニ付テハ口徑一五〇「ミリメートル」ヲ超ユル砲ハ不可ナリトノ提案(D/C.T./14)ヲナセリ

我方委員ハ侵略行爲ト戰鬭行爲トハ之ヲ混同スヘカラス若シ侵略者ニシテ野戰陣地ヲ構築スル場合ニハ防禦者ハ右陣地ノ抵抗ヲ擊破シ得ル威力ヲ有スル砲ヲ必要トスヘク砲ノ制限ハ右ノ如キ對象物ヲ考慮ニ入レサル限り妥當ナリト云フコトヲ得ス現代戰ニ於テ短時日ニ設備セラレタル陣地ヲ突破スル爲メニモ一〇〇「ミリメートル」ヨリ大ナル砲ヲ有セサル限り徒ラニ人命ヲ損傷スルノ結果ヲ生スヘク最モ薄弱ナル掩護物ニ對シテモ一五〇「ミリメートル」ノ砲ヲ必要トスルコトハ一般ノ認ムル所ナリ從テ此ノ程度ノ砲ヲ制限セハ間接ニハ防禦戰爭ニ於ケル攻撃力ヲ制限スルコト、ナルヘシ

ト述ヘ又大ナル抵抗力ヲ有スル野戰陣地ニ對シ有效ニ射撃シ得ル砲ニ關シテハ日本ハ專門分科會ニ於テ全會一致ニ達シタル報告ヲ支持ス此ノ點ニ關スル多數國ノ制限論ハ全然謬見ナリト云ハサルヲ得スト指摘セリ

佛國委員ハ我方委員ノ所說ニ同意シ且委員會カ專門家ノ報告ヲ全然度外視シ餘リニ驅ケ離レタル議論ヲナシ居ルハ不可解ナリトテ右報告ヲ參考トセサルヘカラス所以ヲ縷述セリ

英國委員ハ專門分科會ニ於テ長時間ニ互ル議論ヲ盡シタルニ拘ラス委員會ハ尙安結ノ曙光見エス各國委員共當初ノ所說ヲ繰リ返シ居レルハ遺憾ナリ英國委員ハ既ニ開陳セル主張ヲ捨ツルモノ非ルモ委員會カ全會一致ノ回答案ニ到達センコトヲ念トシ多數國ノ主張ヲ採リ入レタル提案(D/C.T./13)ヲナサントスルモノナリト述ヘ右案ヲ討議ノ基礎トセンコトヲ希望セリ

右ニ對シテハ我方初メ英、佛、獨等多數ノ委員ハ之ヲ討議ノ基礎トスルコトニ贊意ヲ表シ西、洪、和、白等既ニ具體的提案ヲナシ居レルモノモ亦異議ナキ旨ヲ答ヘタルヲ以テ結局英國案ヲ基礎トシ之ニ對スル各國ヨリノ修正案(獨(C.T./15)伊(C.T./16)佛(C.T./17)日(C.T./18))ヲ考慮ニ加ヘ一般委員會ニ對スル回答案ヲ作成スルコトニ決定セリ

四、一般委員會ニ對スル報告案作成

英國案ヲ基礎トセル討議ノ經過及決定事項左ノ通り

(1) 前 文

前文ニ關シテハ異議ナク左記原案ヲ可決ス

「專門分科會ニ附託セラレタル質問書(Conf. D/C.T./7)ニ對スル右分科會ノ回答ヲ包括スル結論(Conf. D/C.T./8, 8a, 8c)ニ基キ陸軍委員會ハ一般委員會ノ審査ニ供スル爲次ノ勸告ヲ提出ス」

(11) a 項

本項前半ニ關シテハ異議ナシ後半ニ關シテハ佛國修正案トノ調和ヲ計ル爲兩國委員ニテ協議ノ結果左記ノ案ヲ採擇

「a、凡ユル火砲ハ之ヲ攻撃及防禦ノ兩目的ニ使用スルコト可能ナリ然レトモ火砲ノ攻撃的性質ハ防禦組織及民衆ニ對スル有效ノ度即チ其威力及射程ノ増加ニ比例シテ増大スルモノナリ」

(三) (b) 項

本項ニ關シテモ英佛兩案ノ對立アリ意見交換ノ結果佛案ニ依ルコト、ナリ之ニ英伊委員ノ主張ヲ入レタル左記修正案ヲ採擇ス

「b、永久要塞ノ固定火砲ト移動火砲ト相互ニ轉用スルコトノ可能ナル事實ノ生スル問題ニ對シテハ一般委員會カ追テ與フヘキ解決ヲ保留シ陸軍委員會ハ移動火砲ニシテ國防ニ對シ最モ脅威的ト見做スヘキモノハ相當抵抗力アル永久要塞ヲ破壊シ得ルモノトナス

(1) 大ナル抵抗力ヲ有スル永久要塞ニ對シテハ五百「キログラム」以上ノ彈丸ヲ發射シ得ル口徑三二〇「ミリメートル」以上ノ砲

(2) 中等程度ノ抵抗力ヲ有スル永久要塞ニ對シテハ二百「キログラム」以上ノ彈丸ヲ發射シ得ル口徑約二五〇「ミリメートル」以上ノ砲

(四) (c) 項

本項ニ關シテハ佛ノ外獨伊ノ修正案アリ議長ニ於テ妥協ヲ計リタルモ議纏ラサリシ爲一應會議ヲ休止シ專門分科會ノ報告ヲ基礎トシ上記各國ノ妥協シ得ヘキ新案ヲ作成スルコト、ナリ關係委員會間ニテ懇談ノ結果

「小ナル抵抗力ヲ有スル永久要塞ニ對シテハ口徑一〇〇乃至二五〇「ミリメートル」ノ砲

一時的ニ構築セラレタル野戰陣地ニ對シ有效ナル砲ニ關シテハ一五〇乃至二〇〇「キログラム」ノ彈丸ヲ發射シ得ル口徑一〇〇乃至二五〇「ミリメートル」ノ砲

「a、得之ヲ委員會ニ上程セル處英國委員ハ一〇〇「ミリメートル」ノ砲ハ野戰陣地ニ對シ有效ニ作用シ得ルモノニアラス專門分科會報告ニ記載セラレ居ル如ク少クトモ一五五「ミリメートル」トナスヘシト論議再ヒ紛糾セルヲ以テ報告者ハ專門分科會報告ノ調整ヲナシタル新妥協案(D.C.T.20)ヲ作成シ且如何ナル砲カ一般委員會指定ノ三特性ヲ有スルヤノ點ニ關シテハ(イ)一〇〇「ミリメートル」(ロ)一五〇「ミリメートル」及(ハ)二二〇「ミリメートル」ノ三種ノ意見アル處此點ニ關シテハ全會一致ノ結論ニ到達スルコト困難ナルニ付右ノ旨ヲ一般委員會ニ對スル報告中ニ指摘スルコト、シテハ如何ト提議シタル處英國委員ハ報告者ノ提議ニハ全然同感ナルモノ一〇〇「ミリメートル」ノ砲カ野戰陣地ニ對シ有效ニ作用シ得ルモノトハ認め難キヲ以テ右報告者提出ノ新案ニハ賛成スルコト能ハス專門分科會ノ報告ニ對スル英國側ノ解釋ト報告者ノ解釋トノ間ニハ大ナル相違アリト述ヘタリ依テ佛國委員ハ更ニ妥協案トシテ專門分科會報告中第二章問題第二ノ第三節ヲ其ノ儘引用シテハ如何ト提議シ熟議ノ結果左ノ決定案ヲ得タリ

「c、小ナル威力ノ第二ノ範疇ニ於テハ口徑二五〇「ミリメートル」乃至約一〇〇「ミリメートル」ノ砲ヲ以テ適當トナス

口徑約一〇〇「ミリメートル」迄ノ砲ハ一般ニ最モ薄弱ナル掩護ヲ有スル戰場ノ目標及人員ニ對シテノミ有效ナリ

右以上ノ口徑ヲ有スル砲(就中最モ普通ニ使用セラレ居ル約一五〇「ミリメートル」ノモノ)ヨリ二二〇「ミリメートル」ノ砲ニ至ルモノハ制限セラレタル人員及器材ヲ以テ制限セラレタル時間内ニ建設シ編成セラレ得ル戰場ノ大多數ノ塹壕、組織及其他ノ目標ニ對シテ有效ナル結果ヲ收ムルコトヲ得使用シ得ル時間人員及器材カ陣地ノ抵抗ノ度ヲ増大スルコトヲ可能ナラシメタル場合ニ於テハ口徑二五〇「ミリメートル」ノ砲迄ヲ必要トスルニ至ル」

尙右ニ對シ獨逸委員ハ一〇〇「ミリメートル」ノ口徑ニ關スル同國從來ノ立場ハ之ヲ變更スルモノニアラス右(c)項

ニ付テモ同様ナリトノ留保ヲ附シタリ

(五) 項

本項ニ關シテハ佛獨伊ヨリ修正案ノ提出アリ先ツ佛國委員ハ本項ニ關スル同國修正案即チ「一方ニ於テ若干代表部ハ急造野戰陣地ニ對シテ有效ニ作用シ得ル砲ハ防禦ニ對シ脅威ヲ與フルモノナリトノ見解ヲ有スルモ他方ニ於テ他ノ若干代表部ハ右ヲ以テ防禦ニ必要ナリトノ見解ヲ有ス」トノ點ヲ明カニセンコトヲ求メ其理由トシテ如何ナル國モ侵略ニ對シテ自國ヲ防禦スヘキ兵器ヲ有セサルヘカラス如何ナル兵器ト雖モ攻撃性ヲ有ス而シテ右攻撃性ハ不意打ヲナスコトニ於テ大トナルモノナリ故ニ侵略ヲ防止シ之ヲ抑壓スル爲メニハ單ナル兵器ノ禁止ノミナラス不意打ヲ不可能ナラシムヘキ監督方法ヲ樹立セサルヘカラスト述ヘ佛國ハ二二〇「ミリメートル」以下ノ砲ヲ以テ防禦ニ對シ脅威ヲ與ヘス寧ロ防禦ニ必要ナリト思惟ストノ趣旨ヲ述ヘタリ議長ハ本項ハ最早不必要トナリタル觀アルニ付之ヲ削除シ佛國委員ノ意見ハ之ヲ報告ノ脚註トシテハ如何ト述ヘタル處佛國委員ハ右ニ對スル速答ヲ避ケタリ伊國委員ハ佛國提案ハ原則ノ問題ニ關スルモノニシテ本委員會ノ權限外ニ屬スルモノナリトテ右ニ關スル討議ニ反對シ蘇國委員ハ量の制限ノ伴ハサル限リ質的制限ヲナスモ效果ナカルヘク質的制限ヲナスモ質的變改ヲ禁止セサルニ於テハ充分ナラサルヘシトテ右佛國案ヲ「或ル代表部ノ見解ニ依レハ此種ノ砲ハ防禦ニ對シ甚大ナル脅威ヲ與フルモノナリ」ト改ムヘシト主張セリ

我方委員ハ佛國案ニハ大體ニ於テ賛成ナリトテ

「或ル代表部ハ第二ノ範疇ニ屬スル砲ヲ攻撃的ナリト看做スモ他ノ代表部ハ右ヲ以テ防禦ニ必要ナリト思惟ス」トスルニ於テハ日本ハ之ヲ受諾スヘシ」ト述ブ

獨逸委員ハ佛國案ハ或ル點ニ於テ本委員會ノ權限ヲ逸脱セシムル虞アリト述ヘ者シ佛國案ニ

「特ニ攻撃的性質ヲ有ストナス砲ノ最低限界ハ相對的ノモノナリ即チ對手ノ砲ノ口徑小ナレハ右限界モ低下ス」ト

ノ趣旨(D/C.T/24)ヲ附加スルニ於テハ同意シ得ヘシト述フ茲ニ於テ佛國委員ハ更ニ新案(D/C.T/23)ヲ提出シ其ノ後半ニ於テ防禦ニ脅威ヲ與フル砲ノ限界ニ關スル各國ノ主張ヲ一〇〇「ミリメートル」一五五「ミリメートル」二二〇「ミリメートル」ノ三種ニ分チ併記シタルニ付我方委員ハ之ヲ四種ニ分チ二五〇「ミリメートル」ヲモ併記センコトヲ希望シ日本ハ二五〇「ミリメートル」ヲ以テ境界トナントスル意向ナリト述ヘタリ

議長ハ佛國新案ノ採否ヲ表決ニ問ヒ伊蘇洪土勃獨支及「アフガニスタン」委員ノ留保附ニテ之ヲ採擇セリ即チ左ノ如シ

「d、前項火炮ノ國防ニ對スル脅威性ニ就テモ又此ノ脅威性ヲ何レノ口徑以上ニ認ムヘキヤニ就テモ見解ノ一致ヲ見ルニ至ラス

若干國ノ代表ハ此範疇ノ火炮カ國防ニ對シテ脅威的ナリト云フヨリモ寧ロ必要ナリト思惟セリ

註 伊、蘇、匈、土、勃、「アフガニスタン」、支及獨ハ國防ニ必要ナル武器ヲ審査スルコトハ一般委員會決議(Conf. D/C.G.23)ニ明記シアル陸軍委員會ノ權限ニ非ストノ故ナリ以テ本文ニ對シテ保留チナセリ

右採擇後獨逸案ノ討議ニ入りタル處議論紛糾シ議長及報告者ニ於テ種々調停ヲ計リタルモ妥協ノ望絶無ナルカ如キ觀ヲ呈セルヲ以テ佛國側ハ新タニ妥協案(D/C.T/26)ヲ提出セリ右新案ニ對シ蘇國委員ハ右ハ政治的性質ヲ有シ本委員會ノ權限外ニ屬スト主張シ討議ノ末議長ハ本問題ニ關スル各國ノ主張ニ鑑ミ解決案ハ(イ)全然相對性ノ問題ニ觸レサルコト、スルカ(ロ)(a)項中ニ挿入スルコト、スルカ(ハ)一般委員會ニ對スル報告中ニ附託スルカノ三方法以外ニナシト述ヘ其ノ何レノ方法ニ依ルヘキヤニ關シ委員會ノ意嚮ヲ諮レリ佛國委員ハ全然相對性ノ問題ニ觸レサルニ於テハソレモ可ナルモ苟シクモ之レニ觸ル、以上一切ノ場合ヲ考察シ相對性ニ關スル明確ナル定義ヲ下サ、ルヘカラスト主張シ蘇國委員ハ前記ノ通本問題ハ本委員會ノ權限外ニ屬スルヲ以テ全然之レニ觸レサルコトトスヘシ然レトモ若シ之ニ觸ル、ニ於テハ蘇國委員ハ

「或ル代表部ハ相對性ノ問題ニ觸ル、コトニ反對ヲ表セリ」

トノ旨ヲ附記センコトヲ主張セサルヲ得スト述ヘタリ

依テ議長ハ右諸主張ヲ包含スル左記新案(D/C.T./29)ヲ「ビューロー」ヲシテ作成セシメ之ヲ採擇セリ

「右ニ反シ他ノ若干國ノ代表ハ約一〇〇「ミリメートル」以上ノ火炮ヲ以テ國防ニ對シ脅威性ヲ有スルモノトナシ又他ノ若干國ノ代表ハ之ヲ一五五「ミリメートル」更ニ他ノ若干國代表ハ之ヲ二二〇「ミリメートル」ト認メタリ特ニ攻撃の性質ヲ有ストナス砲ノ口径最低ノ限界ハ相對的ノモノナリ

註 蘇國代表ハ此相對的問題ニ關シテハ何等言及スヘキモノニ非ストノ故ヲ以テ本文ニ留保ヲナセリ

若干國ノ代表ハ一國ノ火炮ニシテ其限界ヲ超エテ生スル攻撃の性質ト防者ノ使用スル手段ノ威力弱クレハ弱キ程低下スルモノナリト考察シ居レリ又他ノ若干國ノ代表ハ此問題ハ更ニ複雑ナリト考ヘ居レリ即チ火炮カ特ニ攻撃の性質ヲ有スト見做サレ得ル口径ノ限界ハ火炮ノ威力(口径及射程)射撃スヘキ目標ノ性質及掩護換言スレハ相互ニ採用スヘキ行動ト手段トニ依リテ差異アリ此限界ハ又當時ニ於ケル戰略的情況ニ依リテモ變化ス而シテ此情況ハ領土ニ侵入シタル攻者ニ對シ防者カ反撃ヲ實施スル場合或ハ攻者カ他國ノ領土ヲ侵略スル場合ニ依リテモ異ナル尙最後ニ問題ノ限界ハ大口徑砲カ受クル規定ノ内容(性質)ニ依リテ變化スルモノナリ」

(六) 項

議長ハ本項ニ關シテハ英國案ノ外ニ佛伊獨及日ノ諸國ヨリ修正案ノ提出アリ而カモ佛國案ト英國案トハ根本的ニ異ルヲ以テソノ何レヲ討議ノ基礎トスヘキヤト諮リ我方委員ハ日本ハ戰場ノ深サヲ五〇「キロメートル」トシ度キ意向ヲ以テ射程ノ限度ヲモ五五「キロメートル」トセンコトヲ提議セルモノナルモ佛國案ニ依レハ各國ノ意見ヲ併記スルコト、ナルカ故ニ日本ハ同案ヲ支持スヘキ旨ヲ述ヘタル處英國委員モ亦元來英國案ハ妥協の見地ヨリ提出セラレタルモノナルニ付佛國案ヲ討議ノ基礎トスルニ異議ナシト述ヘ討議ノ末同案前段ニ些少ノ修正ヲ加ヘ且其ノ末尾ニ獨逸修正

案(D/C.T./25)ヲ追加シ又後段ハ殆ンド其儘之ヲ可決シ左記案ヲ採擇セリ

「一般委員會(Conf. D/C.G./282)決議ノ第三要素ニ關スル質問集第三ノ一及二ノ問題ニ對スル専門分科會ノ回答ハ次ノ如シ

若干國ノ代表部ハ口径二〇〇「ミリメートル」以上ニシテ二五「キロメートル」以上ノ有效射程ヲ有スル砲兵器材料ヲ以テ民衆ニ對シ最モ脅威的ナリトナセリ

他ノ若干國「ソ」代表部ハ此性質ハ一〇五「ミリメートル」以上ノ口径ヲ有シ一五「キロメートル」以上ノ有效射程ヲ有スルモノニ存ストナセリ而シテ一五「キロメートル」以上ノ距離ニハ軍事的重要性ヲ有スル目標(自動車塔載豫備隊ノ集合場、停車場、飛行場、軍需工場等)存在スルモ此等目標ニ對シ第一線ヨリノ距離ノ限界ヲ示スコトハ不可能ナリ是レ此地域ニ於テハ軍事上ノ要求ヨリモ寧ロ民衆ノ保護ヲ先ニスルノ必要アルヲ以テナリ

之ニ反シ他ノ若干國ノ代表部ハ第一線ヨリ五〇「キロメートル」ノ距離内ニ在リテ自動車ニテ數時間ヲ以テ戦闘ニ參加シ得ル戰術豫備ヲモ戰場ノ深サ中ニ包含セシムヘシトナセリ而シテ右ニ相當スル距離以上ヲ射撃シ得ル火炮ハ軍事目標ニ對スルヨリモ寧ロ民衆ニ對シテ一層危險ナルカ故ニ最脅威的ナルモノト思惟ス」

第三項 戰車裝甲車問題

一、専門分科會諮問事項

委員會ハ戰甲及裝甲車ノ問題ニ關シテモ重砲ノ場合ト同様ノ審議ノ方法ヲ執ルコト、ナリ英佛兩國委員ヨリ提出セル諮問事項案(D/C.T./28, 30)ヲ「ロオデ・ネー」シ「ビューロー」ニ於テ作成セル案(D/C.T./31)ヲ基礎トシ左記諮問事項ヲ採擇セリ

一、左記兵器ノ特性如何

(イ) 戰 車

- (ロ) 各種装甲自動車
- (ハ) 装甲移動砲塔
- (ニ) 装甲列車
- 二、永久要塞ニ對シ前記各項目ノ效果如何
右要塞突破不可能ナル型式アリヤ
- 三、前記各項目兵器ノ塹壕、野戰、築城及其ノ他ノ戰場目標ニ對スル效果如何
右國防要素ノ突破不可能ナル型式アリヤ
- 四、装甲戰闘車輛ハ特ニ左ノモノヲ脅威スル特性ヲ有スルヤ
- (イ) 一般民衆
- (ロ) 特ニ戰場ト稱スヘキ地域以外ノ軍事目標
- 五、如何ナル範圍ト如何ナル時間トヲ以テ車輛ハ左記ニ改造シ得ルヤ
- (イ) 戰車
- (ロ) 装甲自動車
- (ハ) 装甲列車

二、専門分科會ハ五月二十五日乃至五月三十日迄四回ノ會議ヲ開催セリ經過及決定事項左ノ通

(イ) 問題 第一

本問題ニ關シテハ英佛兩委員ヨリ夫々回答案(D/C.T./C.E./41, 42)アリ右兩案ヲ基礎トシテ審議ヲ開始セル處西國委員ハ戰車ノ定義ハ現存ノ戰車ノミヲ基礎トスヘキモノニシテ將來ノ發達ヲ豫想セル假想的戰車ニ依ルヘキモノニアラスト主張セシモ佛國委員ハ苟モ定義ハ將來ノ發達ヲモ包含シ得ルモノナラサルヘカラスト述ヘタリ次テ前記英佛兩案ニ付

妥協點ヲ發見セント努メタルモ戰車ト装甲車トノ間ニ明瞭ナル區別ヲ置カントスル英國委員ト之ニ反對スル佛國委員トノ間ニ意見一致ヲ見ルコト能ハス「ビュロー」ニ於テ妥協案ヲ作成シ協議ノ結果左記ノ案ヲ暫定的ニ採擇セリ

「(イ) 及 (ロ) 戰車及装甲自動車ハ装甲シ武裝セル自動推進車輛ナリ

戰車及装甲自動車間ニ適確ナル區別ヲ附スルコトハ不可能ナリト雖戰車トハ各種地形ヲ超エテ前進スル高度ノ力ヲ有シ(特ニ「キャタピラー」ニ依リ)且ツ型式ニ依リ程度ノ差アルモ塹壕ヲ超エ障礙物ヲ顛覆シ得ル能力アルモノト云フヲ得ヘシ

装甲自動車ハ之ニ反シ特ニ組織セラレタル戰場ニ使用センカタメ設計セラレ居ラス装甲自動車ニ二種アリ一ハ道路上ヲ行クモノニシテ他ハ田野ヲ驅馳シ得ルモノナリ

或ル種型式ノ戰車特ニ装甲車ハ速力大ニシテ廣大ナル行動範圍ヲ有シ得ルモノナリ」

右定義ニ對シテハ英國委員ノ不滿アリシヲ以テ報告者ニ於テ同委員ト協議ノ末左記脚註ヲ追加スルコトトシ折合ヒタリ

「分科會ハ装甲ナル文字ハ成シ得ル限り防護セラレ居ルノ意味ニ解釋スヘキコトニ一致セリ換言スレハ部分的装甲ノ存在ハ本定義ノ範圍内ニ入ルニ十分ナラス

英國代表部ハ此意味ヲ「十分ニ装甲セラレ」ナル句ヲ以テ表ハサントセシモ之ヲ佛語ニ翻譯スルコト困難ナルヲ以テ英國代表部ハ之ヲ註釋ニ委シ其主張ヲ撤回セリ」

(ハ) 及 (ニ) ニ付テハ大體佛國案ノ定義ヲ其儘採擇セリ

(ロ) 問題 第二

本問題ニ關シテハ左シタル討議ヲ見ルコトナク佛國案(D/C.T./C.E./41)ニ多少ノ修正ヲナシ左記ヲ決定セリ

「野戰ノタメ設計セラレタル装甲車輛ノ如何ナルモノモ現代永久築城ノタトヘ中等程度ノモノト雖之ヲ攻撃スルノ地位ニアラス

更ニ戰車ノ攻撃ヲ受クヘキ如何ナル現代要塞ノ組織モ天然又ハ人爲ノ障礙又ハ防禦（深キ廣キ溝、「コンクリート」ノ壁等）ヲ使用スルニ依リ其攻撃ニ對シ殆ト安全ナラシメ得ヘシ

乃チ第二問題ノ（イ）（ロ）ニ對スル回答トシテハ如何ナル裝甲戰闘車輛モ天然自然ノ障礙物カ完備シ居ル永久要塞ノ組織ニ對スル攻撃ニハ效果ナキモノトス

裝甲列車ニ關シテハ其行動ハ其裝備スル火炮ニ依ルモノナリ」

本問題ニ對シ佛國委員ハ次ノ注意ヲ附加セリ

「然レ共永久築城ノ攻撃ノタメ特ニ設計セラレ一等要塞ニ裝備スル兵器ニ對シ十分ニ裝甲セラレタル戰車ハ此ノ如キ要塞ニ十分接近シ火力ニ依リ「コンクリート」ヨリ突出シ居ル砲眼及砲身ヲ破壊シ得ヘシ

然レ共此種戰車ハ計算ニ依レハ其重量百噸ニ達スヘク將來ノ發達ヲ見越スモ此種戰車重量ノ最低限度ハ七十噸ニ達スヘシ」

獨、芬兩委員バ次ノ注意ヲ附加セリ

「永久築城及防禦砲兵ノ破壊及制壓ハ重砲ノ任務ナルト共ニ堡壘ノ前方及中間地區ニ在ル車隊及目標ヲ攻撃スル歩兵ヲ援助スルハ戰車ノ任務ナリ

此事實ニ鑑ミ戰車ハ永久要塞ノ攻撃ニ關シ國防ヲ脅威スル特性ヲ有シ重量及效力ニ伴ヒ此特性ハ増加スルモノナリ」

（ハ）問題 第三

本問題ニ關シテモ英、佛兩委員ヨリ夫夫回答案(D/C.T./C.E./45.46)ノ提出アリ佛國委員ハ大戰ノ經驗上輕戰車ト雖モ戰場ノ障礙物ヲ突破シ得トナスニ反シ英國委員ハ戰車ノ破壊力ノ大小ハ其ノ重量大サ及速力ノ如何ニ依ルトテ幅二、四乃至三「メートル」ノ塹壕ヲ超ユル爲ニハ三三噸ヲ要シ幅一、八「メートル」ノ塹壕ヲ超ユル爲ニハ一六噸ヲ要シ一〇噸以下ノ戰車ナルニ於テハ最モ狹キ塹壕（幅一、五「メートル」以下）ノ外ハ突破不可能ナリトシ兩者ノ間ニ著シキ意見ノ相

違アリ而カモ分科會ノ大勢ハ佛國案ニ傾キタルヲ以テ英國委員ハ同案ヲ討議ノ基礎トスルコトニハ同意スルモ同案ト英國案トノ理論的相違ヲ調整スルコトハ不可能ナリト思惟スルカ故ニ右討議ニハ參加セス英國案ヲ小數意見トシテ多數決案ニ附加セラレ度シト述ヘ右ニ決定セリ

依テ佛國案ニ多少ノ修正ヲナシタル上左記ヲ採擇セリ

「戰車ハ組織セラレタル戰場ニ於テ有效ニ行動シ得或ル種裝甲自動車ハ戰場ノ組織不十分ナルカ又ハ連續シ居ラサル場所ニ於テ行動シ得輕戰車ト雖モ一般ニ塹壕ヲ越過シ戰場ニ於ケル普通ノ鐵條網ヲ突破シ得、七噸ノ最モ輕キ戰車ト雖モ強固ニ組織セラレタル戰場ニ對シ有效ニ行動シ得、然レ共若シ戰車カ敵ノ對戰車砲火又ハ敵ノ戰車ニ暴露スル場合戰場ニ於テ攻防共ニ有效ニ使用セラレンカ爲メニハ其防護（裝甲及武裝）ノタメ著シク重量ヲ増加スヘシ

移動裝甲砲塔及裝甲列車ハ其ノ裝備スル火炮カ目標前ニ到達スル時ニ於テノミ野戰築城ニ對シ效果アルモノトス」

尙獨及洪委員ハ右ニ對シ次ノ脚註ヲ加ヘンコトヲ要求セリ

「戰車ノ效力ハ防者カ戰車及對戰車砲ヲ有セサル場合ニ於テハ増加スヘシ」

（ニ）問題 第四

本問題ニ對シテハ英、佛、伊、洪ノ委員ヨリ各提案アリ各提案(D/C.T./C.E./47.48.49.50)アリ各提案ノ間ニ相當懸隔セル相違點アリシヲ以テ右四國ヨリ起草委員會ヲ設ケ（イ）及（ロ）ヲ合一セル妥協案(D/C.T./C.E./54)ヲ作成セシメタリ右妥協案ニ對シテハ蘇國委員ヨリ本問題ノ（イ）ト（ロ）トハ別個ノモノニシテ殊ニ（イ）ハ特殊ノ重大性ヲ有スルニ鑑ミ回答モ二分スヘキモノナリト述ヘ又戰車、裝甲自動車ト通常ノ軍用自動車トヲ同様ニ取扱フハ非ナリトシ反對ノ意ヲ表シ獨逸委員之ヲ支持セリ我方委員ハ右特質ハ裝甲及武裝ヨリモ速力及行動半徑ニ存スル點ヲ重視シ原案ヲ支持スル旨ヲ主張シ結局蘇獨兩委員モ前記兩國ノ主張ノ要旨ヲ脚註トシテ附記スルコトヲ條件トシテ同意シ左記ヲ得タリ

「國際法規ニ反シ直接且計畫的ニ民衆ヲ攻撃スル假定ヲ除キ戰車及裝甲自動車ハ若シ軍事目標ヲ攻撃スル場合同時ニ民衆ニ危害ヲ及ホスコトアラハ其ノ時ノミ特ニ彼等ヲ脅威スルモノト云フコトヲ得ヘシ

然ルニ事實ハ之ニ反シ戰車及裝甲自動車ハ單ニ近距離ニシテ最モ明瞭ナル目視シ得ヘキ目標ヲ攻撃シ得ルニ過キササルヲ以テ彼等ハ戰場外ノ目標ト雖航空機及砲兵ノ彈丸ヨリモ民衆ニ對シ危害ヲ與フルコト少クシテ之ヲ攻撃シ得ヘシ此特質ハ特ニ其ノ速力及行動半徑ト相俟ツテ或種戰闘車輛ヲ特ニ戰場外ノ軍事目標ヲ攻撃スルニ適當ナラシメ戰闘ヲ交戰軍ノ側方及背後ニ擴張セシム

同様ノ速力及行動半徑ヲ有シ軍隊ヲ運搬シ得ヘキ凡テノ自動車モ程度ノ差ハアルモ亦此ノ性質ヲ有ス

此ノ如キ使用ヲ達成スヘキ最重要ナル要素ハ車輛ノ運動性ナリ

火力ヲ所望ノ地點ニ運搬シ得ル限リ裝甲ト武裝トハ大ナル問題ニ非ス

移動砲塔車ハ戰場外ニ行動シ得ス裝甲列車ノ戰場外ノ目標及地方民衆ニ對スル行動ノ可能性ハ火炮ノ射程及運搬スル人員ノ行動ニ依ル

蘇及獨委員ノ附シタル脚註左ノ如シ

「戰車及裝甲自動車ト普通運搬車輛ヲ比較スルコトハ不可能ナリ

戰車ノ絕對必要要件ハ裝甲セラレ道路外ヲ行動シ得何時ニテモ射撃シ得ヘキ武器ヲ有シ且此等一切ノ要素カ可及の小容積中ニ含マレ居ルコトニ存ス

右ト同様ノコトハ程度ハ小ナルモ裝甲自動車ニ就テモ云フコトヲ得ヘク其ノ效力ハ他ノ自動車ヨリモ甚シク大ナリ

特ニ戰場ト稱シ得ヘキ地域以外ノ軍事目標ヲ攻撃シ戰争ヲ交戰軍隊ノ側面及背後ニ擴大セシムルノ可能性ハ純軍事的見地ニ從ヘハ軍隊輸送ニ對スル戰車及裝甲自動車ノ掩護ニ依ル

兩國代表ハ第二項ノ最後ノ二句ヲ右ノ意味ニ解釋ス」

(ホ) 問題 第五

本問題ニ對シテハ英國委員ヨリ提案 (D./C.T./G.E./51) アリ之ヲ基礎トシテ審議シタル處波蘭委員ハ近代的「トラクター」ノ戰車ニ改良セラレタルモノハ舊式戰車ヨリモ有效ナリトノ修正案ヲ出シ羅及塞委員之ヲ支持シ蘇國委員之ニ反對シ四國委員間ニテ論議ヲ重ネタル結果右波蘭委員ノ主張ヲ脚註トシテ附記スルコトニ折合ヒ又改造可能性及所要時間等ニ關スル伊國委員ノ主張ヲ同シク脚註トシテ附記スルコトナリ左記ヲ採擇セリ

「多クノ國ニハ戰車及裝甲自動車ニ改造シ得ヘキ多數ノ車輛ヲ有ス

改造セラレタル「トラクター」ハ戰車トシテ製作セラレタルモノヨリモ能力ニ於テ劣ル

製作上ノ理由ニヨリ此等ハ右目的ノ爲ノ特種ノ設備ナキ限リ砲塔ヲ裝置シ得サルヘク四周ニ對スル射撃ハ實行シ得サルヘシ裝甲自動車ハ固有ノモノト同等ノ程度ニ急造シ得ヘシ路上速力及戰闘力ハ劣ルヘキモ裝甲自動車ハ主トシテ搜索用ナルヲ以テ急造車輛モ適當ニ此任務ニ服シ得ヘシ

右改造實施ノ可能性及此ノ如キ改造車輛ノ能力ハ主トシテ各國ノ工業力ニ依ル

改造ニ要スル時間ハ半熟練職工、技術上ノ材料及適當ナル貯藏裝甲ニ依ル

防彈鐵板ノ製造ハ長期ノ工程ヲ要ス然レ共之ヲ得ラレサル場合ニ於テモ商業上直チニ求メ得ヘキ普通ノ鋼板モ間ニ合ハセニ使用シ得ヘク厚サヲ増加スルコトニ依リ防彈ノ目的ヲ達シ得ヘシ

或ル程度ノ防護ハ豫メ必要ナル技術の準備アレハ數時間内ニ實施シ得ヘシ一般ニ與ヘラレタル車輛改造ニ要スル時間ハ左記ノ程度ニ應シ減少スヘシ

(イ) 最初ノ製造ニ際シ改造ヲ顧慮シ完全ナル準備ナサレ居ル場合

(ロ) 特ニ重要ナル部品ノ貯藏及必要ナル技術上ノ材料ニ關シ改造カ一層完全ニ準備セラレ居ル場合
良好ナル狀態ニ於テ戰車ノ製造ハ三週間内ニ裝甲自動車ハ一週間又ハ十日以内ニ開始シ得ヘシ

若シ技術上ノ材料及必要ナル裝甲板アルトキハ列車ハ數週ヲ以テ裝甲シ得ヘシ

然レ共裝甲列車殊ニ有力ナル火炮ヲ裝備スルモノノ編成ハ更ニ長時日ト特種材料ノ著シキ貯藏材料ヲ必要トス」

右ニ對スル波蘭委員ノ附シタル脚註左ノ如シ

「若干國ノ代表ハ或種「トラクター」ハ改造後舊式車ヨリモ一層有力ナリト思考ス」

尙伊國委員ノ附シタル脚註左ノ如シ

「裝甲戰闘車輛ニ改造セラルヘキ普通車輛ノ多種ニシテ從テ其特質モ亦著シク變化アルヘキニ鑑ミ改造ノ可能性及所要時間ノ正確又ハ概要ノ限度ヲ定ムルコトハ不可能ナルカ如シ」

三、陸軍委員會ニ於ケル一般討議及報告案作成

陸軍委員會ハ戰車等ニ關スル專門分科會報告(D./C.T./34)ヲ受領シ右ヲ基礎トシテ一般委員會ニ對スル回答案ヲ考究スルコトナリ五月三十一日右ニ關スル一般討議ヲ開始セリ

主要討議要領左ノ通り

先ツ米國委員ハ專門分科會報告ハ戰車ニ對シ明確ナル定義ヲ與ヘ居ラサル處右ハ一般委員會ノ事業ヲ困難ナラシムルモノナリ又專門分科會ハ技術的問題ヨリ離レ政治的考慮ヲナシタルノ嫌アリト批難シ米國ニ於テハ警察用銀行用等ノ爲裝甲自動車ヲ多數使用シ居ルコトヲ舉ケ戰車ノ明確ナル定義ヲ設クルノ緊要ナルヲ說キ本委員會ニ於テ右定義ヲ決定セサルニ於テハ米國ハ自己ノ定義ヲ提出スルノ權利ヲ留保セサルヲ得スト述フ

英國委員ハ一般委員會ニ對シ明確ナル定義ヲ報告スルヨリモ各國ノ相違セル意見ヲ其儘如實ニ報告スル方却テ可ナルヘシ戰車ノ攻撃性ノ如何ハ敵手ニ急速且致命的打撃ヲ與フルノ意思ヲ以テ不意打ヲ遂行シ得ル力ヲ有スル點ニアリ此ノ見地ヨリスレハ重量大ナル次ケ攻撃性モ大ナリト戰車ヲ(イ)二十五噸ヲ超ユルモノ(ロ)十噸乃至二十噸ノモノ(ハ)十噸以下ノモノニ區分シ二十五噸ヲ超ユル重戰車ハ一般委員會指定ノ攻撃性ヲ有スト云フコトヲ得ヘシ尤モ如何ナル戰

車ト雖モ一般民衆ニ對シ脅威ヲ與フルモノニアラスト述ヘ一般委員會ニ對スル回答私案(D./C.T./35)ヲ提案シ之ヲ詳說セリ

蘇國委員ハ同國ハ當初ヨリ戰車ノ全廢ヲ提唱シ來レリトテ一切ノ戰車及裝甲車ハ特ニ攻撃的ニシテ國防ニ對シ脅威的ナリトノ回答案(D./C.T./38)ヲ提出シ但シ「トラクター」ニ關スル波蘭其ノ他ノ所說ニ言及シ右ハ攻撃性ニ於テモ新式戰車ト同日ニ論スヘキモノニ非スト反駁セリ

佛國委員ハ米國委員ノ所說ニハ同意シ難シト前置シ佛國ニ於テハ戰車ト裝甲車トハ其ノ用途以外ニ區別ノ標準ナシ又英國委員ノ云フ如ク重量大ナレハ攻撃性大ナリトナスハ不可ナリト述ヘ七十噸以下ノ戰車ハ一般委員會指定ノ特性ヲ有セスト論シ專門分科會ノ報告ヲ考慮ニ入レタル回答私案(D./C.T./37)ヲ披露セリ

獨逸委員ハ米國委員同様專門分科會カ戰車ノ定義ニ關シ何等ノ決定ニ達セザリシコトヲ痛烈ニ非難シ戰車ハ大戰中攻撃ノタメニ發明セラレタルモノナルコト明カナリトテ一般委員會指定ノ三特性ヲ全部有スト論シ戰車ノ全廢ヲ主張シ前記蘇國提案及後述洪牙利提案(D./C.T./36)ヲ支持スヘキ旨ヲ述フ

伊國委員ハ英佛兩提案ニ反對シ蘇及洪提案ヲ支持シ戰車全廢ヲ主張セリ

洪牙利委員ハ大戰ノ經驗ニ依レハ不意打ニ對シテハ有效ナル防禦方法ナシ戰車及裝甲車ハ侵略國ノ不意打ニ最モ有力ナルモノナルニ付一般委員會指定ノ三特性ヲ有ストテ同國提案ニ付續述セリ

和蘭委員ハ戰車ノ全廢ハ準備委員會以來同國ノ主張シ來レル所ナリトテ同國提案(D./C.T./40)ヲ敷衍説明セリ

我方委員ハ左記陳述ヲナセリ

- (一) 戰車及裝甲自動車ニハ交戰法規ニ反スル使用法ヲ採ラサル限リ民衆脅威ノ性質ナシ
- (二) 移動砲塔及裝甲列車ノ攻撃威力ハ之ニ裝備セラルル兵器如何ニ依ルモノニシテ車輛其物ノ特性ハ一般委員會指定ノ三條件中其孰レニモ該當セス從テ質的軍縮ノ對象トスヘキモノニアラス

(三) 戰車裝甲自動車ノ攻撃の性質及國防ニ對スル脅威性ノ程度ニ就テハ純軍事的議論トシテハ佛國ノ意見ニ賛成ナリ

然レトモ此種性質ヲ有スル裝甲車輛ノ最下限ニ就テ尙ホ考慮ノ餘地アルヘシト認ム

(四) 此種車輛ヲ全廢セントスルカ如キ論ハ果然器材其物ノ性能ト其戰術の用法トヲ混同シ若ハ交戦法規ニ反スル用法ヲ考慮ニ置ケルモノニシテ我代表部ノ同意シ能ハサルモノナリ

右ノ外白、土、埃、丁、「ベルシャ」、物、「アフガニスタン」、瑞西、亞、支、「リヌアニア」等ノ委員モ亦戰車ノ攻撃性ヲ認メ夫々洪牙利案和蘭案等ニ賛成セルモ只「ラトヴィア」、「エストニア」、芬蘭等ノ委員ハ戰車裝甲車等ハ小國ニトリテハ防禦的ノ兵器ナリト主張シ波蘭、羅馬尼、智惠古、「ユーゴスラヴィア」等ノ委員ハ「トラクター」ノ戰車改造禁止ヲ主張セリ

右ニテ一般討議ヲ終リタルモ本問題ニ關スル各國ノ主張ハ其ノ懸隔多大ナルモノアル爲到底全會一致ノ回答案ニ到達スルコト能ハス已ムナク各國ノ主張ヲ其儘併記セル報告案ヲ報告者ニ於テ作成スルコトニ決定セリ

尙委員會ハ前記一般討議中米國委員ノナシタル非難ニ處スル爲英國委員ノ起草ニカカル戰車及裝甲車定義案(D/C.I./41)ヲ採擇シ之ヲ右報告案中ニ挿入セリ

第四項 要塞問題

要塞問題ニ關シテハ獨逸委員ヨリ諮問事項案及同答案(D/C.I./42.43)ヲ提出シ同委員ハ右提案ノ説明ニ當リ右ハ侵略防止ヲ目的トスルモノナリト國境ニ近接シ隣國ニ脅威ヲ與フルカ如キ要塞ノ廢止ヲ主張シ一九三一年九月ノ戰爭防止方法改善條約第三條ヲ引用ノ上本問題審議ノ必要ヲ唱ヘタルモ英國委員ハ要塞カ過去ニ於テ攻撃の性質ヲ有シタルコトアリヤニ付テハ疑ナキ能ハス要塞ハ純然タル固定施設ナルニ付攻撃ヲ受ケサル限り行動シ得サルモノナリト述ヘ本問題ハ若シ之ヲ討議ストセハ長時間ノ論爭ヲ惹起シ本委員會ノ時間ヲ空費スルノミナラス一般委員會ニ對シテモ大ナル參考トナリ得サル

カ如シトテ獨逸委員ハ本問題ヲ撤回センコトヲ希望シ佛國委員モ亦右ニ賛成シ概言セリ要塞ノ位置ハ侵略ノ意思ニ依リテ定マルモノニ非スシテ防禦ヲ要スル重要地點ノ存在ニヨリテ定マルモノナリ又若シ侵略ノ目的ノ點ヨリ云ヘハ必スシモ要塞ニ限ラス他ノ數多ノ侵略遂行ノ方法アルヘシ即チ要塞ニシテ侵略ノ前提ナリトセハ國境ニ近接セル道路及橋梁ノ築造等モ亦然ルヘシトテ要塞カ侵略意思ノ發現ナリトノ所說ヲ反駁セリ

議長ハ若シ本委員會ニ於テ要塞問題ヲ討議セントスルモ同問題ハ何レ一般委員會ニ於テ非武裝地帯ノ問題ニ關聯シ討議セラルヘシト述ヘ暗ニ獨逸委員カ本問題ノ討議ヲ固執セサランコトヲ希望シタル處獨逸委員ハ必スシモ之ヲ固執スルモノニ非サルモ本問題ハ既ニ委員會議題中ニ含マレ居ルモノナルヲ以テ之ヲ削除スル爲メニハ表決ニ附セラレ度シト要求シ議長及獨逸委員間ニ於テ懇談ヲ遂ケタル結果陸軍委員會ハ要塞ニ關シテハ何等ノ決定ニ達スルコト困難ナルヲ以テ右ニ關スル獨逸其ノ他ノ諸國ノ見解ヲ其ノ儘一般委員會ニ回附スルコトナリ右趣旨ニテ報告者ヲシテ案ヲ起草セシメ之ヲ重砲戰車ニ關スル報告ニ附記スルコトニ妥結ツキタリ

第五項 一般委員會ニ對スル報告提出

陸軍委員會ハ上述ノ如ク重砲、戰車、裝甲車及要塞問題ニ關シ個々ニ作成セル報告案ヲ一括シ六月六日之ヲ上程セリ右報告案ニ對シ蘇國委員ハ右ハ一般委員會ノ指令ニ對スル直接ノ回答ト云フコトヲ得ス單ニ専門分科會ノ議論ヲ羅列シタルニ過キス斯クテハ一般委員會ノ事業ヲ益々複雑ナラシメ質的軍縮ノ實現ヲ困難ナラシムルモノナリ蘇代表部ハ本報告案ノ如キ内容空虚ナル報告ノ提出ニ同意スルコト能ハス將來一般委員會ニ於テ從來ノ主張ヲ繰リ返シ口徑一〇〇「ミリメートル」ヲ超エ一五「キログラム」以上ノ彈丸ヲ射出シ且一五「キロメートル」ヲ超ユル射程ヲ有スル一切ノ砲ノ禁止及戰車裝甲車等ノ全廢ヲ主張スヘシトノ趣旨ノ聲明ヲナシタリ

右聲明聽取後委員會ハ直チニ報告案ノ逐條審議ニ入り些少ノ修正ヲ加ヘ且上記蘇國留保ヲ脚註トナシタル上之カ全文ヲ採擇シ六月七日之ヲ一般委員會ニ送附セリ(Conf. D./122)